

イエスが受けた誘惑と人の願い

ルカ4:1~13 / 李正雨師

今、私たちは四旬節の真っ最中にいます。教会の四旬節の伝統によると、この期間は教会では、祈りと実践に関することを強調して実行してきました。四旬節の間、毎日祈りと黙想の時間を持つとか、断食をするとか、隣人を助けるとかなどのことを実践してきました。私たちは、毎週礼拝の終わりに世界のために祈る時間を持っています。皆様も覚えておられると思いますが、この祈りの時間はミャンマーの民主化のための祈る時間でした。そして今は、ミャンマーだけでなく世界のために祈っています。ウクライナやロシア、アフガニスタン、台湾など、私たちの祈りが必要な国々や民族、私たちの隣人のために祈っています。私は、この祈りが四旬節の期間、皆様の毎日の祈りになりますように願います。そして彼らのために実践することもお願いいたします。私たちの隣人にイエス・キリストの教えである愛を示してください。イエス様が苦難を受けられたのは、自分のためではありませんでした。イエス様の受難は、隣人のためのもの、つまり私たちのためのものでした。そして、私たちはイエス様の受難を記念する四旬節を過ごしています。この時期の私たちの祈りと実践は、四旬節をもっと豊かにすると思います。

四旬節の最初の主日の福音書は、イエス様が受けられた誘惑についての言葉です。この言葉は、私たちが信徒としてどんな心得を持って、何を求めるべきかを教えてくれていると思います。今日の福音書1-2節には、イエス様の状況とこの誘惑のきっかけが書かれています。1-2節の言葉です。「さて、イエスは聖霊に満ちて、ヨルダン川からお帰りになった。そして、荒野の中を「霊」によって引き回され、四十日間、悪魔から誘惑を受けられた。その間、何も食わず、その期間が終わると空腹を覚えられた。」

1節には「イエスは聖霊に満ちて、ヨルダン川からお帰りになった」と書かれています。イエス様はヨルダン川で洗礼者ヨハネから洗礼を受けられ、イエス様の洗礼には霊的で神秘的なことが起こりました。そのうちの 하나가聖霊、神様の霊がイエス様の上に降って来たということです。これはイエス様と神様がつながっているということであり、神様の御心がイエス様を通してこの世に現れるのだということです。この驚くべき洗礼が終わると、イエス様は聖霊に満たされました。そしてイエス様と共にあった聖霊は、イエス様を導かれました。ところが、聖霊によって導かれた場所は、何もない荒野であり、イエス様はそこで悪魔の誘惑を受けられました。しかも40日の間、何も食べられないままにです。

この誘惑についてある人々は、善と悪の戦いだと言います。神の子とサタンがこの世界をめぐる取り組む霊的な主導権の争いだということです。しかし、これは正しくありません。この誘惑は聖霊によるもの、神様の御心でした。神様はご自分の子に誘惑を受けさせることになさり、その誘惑の内容は、霊的なものではなく、徹底的に肉体的なものでした。ですから、善と悪の戦いも、霊的な主導権の戦いでもないと思います。そして今日の福音書の前の節には、イエス様の系図が書かれています。なぜイエス様の系図がイエス様の洗礼と誘惑の間に書かれているのでしょうか。このことについても様々な解説があると思いますが、今日の福音書の出来事から見ると、この系図は、イエス様も私たちのような血と肉を持っている人間であることを示しているものです。つまり、イエス様が善として、神の子としてこの誘惑に戦うだけでなく、私たち人間を代表して肉体的な誘惑を受けられているということです。

イエス様が受けられた3つの誘惑は、私たちも私たちの生活で十分に受けることがあるものだと思います。3節で悪魔はイエス様にこう言います。「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。」悪魔は、40日間、何も食べられず、飢えられたイエス様に石をもってパンを作ってみよと言います。空腹の人が食べ物を食べるのは、何の問題でもありません。しかし、どうしてこの言葉が誘惑になれるのでしょうか。まず悪魔は、イエス様が神の子であることを認めていません。これは悪魔の三番目の誘惑でも繰り返されることです。悪魔はイエス様に神的な力を要求します。神の子なら、その力を使って自分を証明してみよということです。そしてその力でパンを作れば、腹も満たすことができるのではないかということです。神的な力を使えば、イエス様ご自分も認められ、腹も満たすことができるというのが悪魔の最初の誘惑でした。この誘惑にイエス様はこのように答えます。「『人はパンだけで生きるものではないと書いてある』とお答えになった。」

イエス様が受けられた聖霊と神様の力は、ご自分のためのものではありませんでした。これは民たちを神様のもとに導くためのものであり、神様の御心に従うためのものでした。ところで、悪魔はこれを持って神の子であることを証明して認められ、自分のためにパンを作ったらどうだと誘惑しているのです。このような誘惑は、私たちの生活の中でも起きています。私たちは、クリスチャンとして私たちの生活の優先順位を神様の言葉に置くべきだということを知っています。しかし、この世の価値がお金に傾いているので、この世に生きている私たちも何よりもお金を大事に思っています。だから、私たちはより良い食べ物と着る者、より良い車と住宅のために、私たちの生涯を捧げます。神様の言葉が重要だと思いますが、実際にはお金が私たちの生活を思うままにしているのです。だから、私たちは、自分でも知らないうちに、神様に石をパンにしてほしいという祈りをする時もあります。この基礎的な欲求の前に、イエス様は「神様の言葉」を言われます。神様の言葉に従うことこそ、この世で一番大事なことだということです。

人の目から見ると、お金や権力がすべてのように見えます。だから多くの人々がお金と権力を追っていて、それを利用して自分の優越を証明し、認められようとしている人もいます。しかしイエス様は、それは正しくないと言っておられます。先週の灰の水曜日の教えは何でしたか。この世のすべてのものは虚しいということでした。塵からとられた人間は、必ず塵に帰るということでした。お金も権力も個人の優越もみんな消え去るのです。この世で大事に思われることはすべて消え去り、神様の国では最も必要ないものになります。それで、イエス様は石にパンになるように命じたらどうだと誘惑している悪魔に神様の言葉のことを言われたのです。

そして、二番目、三番目の悪魔の誘惑もこれと関連があります。イエス様に与えられた二番目の誘惑は、権力と繁栄についてのことでした。サタンは自分を拝むなら、みんながイエス様のものになると言います。イエス様は40日間、荒野におられました。この荒野はイスラエルの荒れ野での生活を思い出させます。イスラエルにとっての荒野は、悲惨な時期でした。一般の国でもなかったし、力もありませんでした。いつでも外部の侵略を受けることがある環境であり、家や建物などを建てることもできませんでした。だから、イスラエルが願ったのは、権力と繁栄だったと思います。しかし、イスラエルは40年間荒野で無事に生きることができました。神さまが彼らを見守ってくださったからです。彼らは必要によって水とマナとウズラを得られ、カナンの土地に無事に落ち着くことができました。それでイエス様は、この誘惑にこう答えられます。「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ(8節)。」

イエス様が受けられた最後の誘惑は、神様を試して自分のことを証明してみよということでした。悪魔は、イエス様を神殿の屋根の端に立たせ、「神の子なら、ここから飛び降りたらどうだ(9節)」と言います。イエス様が神の子なら、「神はあなたのために天使たちに命じて、あなたをしっかりと守らせる」というのです。この誘惑には、神様を試すことだけでなく、イエス様ご自分のことを証明することが入っています。イエス様が神の子であることは、誰かに認められる必要もなく、このために神様を試す必要もないことでした。これは十字架で示されるものだからです。十字架は私たちにイエス様に関連するすべてのものを示し、教えています。イエス様は神の子であり、神の愛の証であり、私たちの救いであることを証明してくれます。たまに私たちは、一部の不信の人たちから「神がいるなら」という言葉を聞くことがあります。彼らは「神がいるなら、世界がなぜこのようになったのか？神がいるなら、なぜ悪人も放っておくのか」などの言葉で神様を否定します。しかし、このように言っている人々によって、つまずいたり、心に傷を受けたりする必要はありません。彼らも神様の子であり、彼らのためにもイエス様が十字架につけられたからです。それでイエス様は「あなたの神である主を試してはならない」と言われます。

イエス様が受けられたこの三つの誘惑は、人間の最も基本的な欲についての誘惑だと思います。だから私たちは、この誘惑に弱いですが、同時にこの誘惑が一番好きなものになることもあります。お金と権力を手に握ることを願い、自分の力を証明して他人に認められることを願っています。しかし、イエス様はこれらのことよりも、神様の言葉が大事なことだと言われます。この世のものはいつかは消え去りますが、神様の言葉は永遠であるからです。四旬節の最初の主日、私たちに与えられた聖書の言葉は、肉的な誘惑に関するものでした。このような誘惑をイエス様はどのように打ち勝たれたか、覚えられる皆様になりますように。神様が私たちをすべての誘惑の中で勝たせてくださいますように、主の御名によって祈ります。アーメン